

これはわたしの愛する子。

マタイ 3 章 13～17 節

そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」
マタイ 3:17 節

神様を信じたなら、クリスチャンは何故、洗礼を受けなければならないのでしょうか。

例えばですが、あこがれの学校に入学したら晴れの入学式、誰でも出席したいですね。愛する人と結婚が決まったならば、結婚式は誰もが憧れるのではないのでしょうか？結婚式をしなくとも結婚生活に入る事も出来ます。でも式は挙げた方がやはり良いのかもしれませんが。イエス様を信じた時も同じです。洗礼式をして、信仰を公にするのです。

では、みことばから、学びましょう。

① ヨハネが悔い改めた者に、水のバプテスマをさずけていました。

(マタイ 3:5、6 節)「そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白しヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」

② イエス様もヨハネから水のバプテスマを受けられました。

(マタイ 3:13 節)「そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川のヨハネのもとに来られた。彼からバプテスマを受けるためであった。」

(マタイ 3:16A)「イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。」

③ イエス様ご自身がバプテスマを受ける事は正しいことと語られました。

(マタイ 3:15)「・・・イエスは答えられた。『今はそうさせて欲しい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。』そこでヨハネは言われたとおりにした。」

④ 父なる神様もイエス様のバプテスマを喜ばれ、御霊も同様に祝福しました。

(マタイ 3:16、17 節)「・・・すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。』」

⑤ イエス様は、私たちにもバプテスマを受けるように望んでおられます。

(マタイ 28:19、20)「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなた

がたとともにいます。」

⑥ 使徒たちも、悔い改めた者にバプテスマを受ける事を勧め、かつこれを施しました。

(使徒 2:38、41)「そこで、ペテロは彼らに言った。『・・・罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。・・・』。彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。」

よくバプテスマを受ける、受けないという事がいろいろとされています。イエス様ご自身も自らがバプテスマを受けられて私たちにも勧めておられます。ですから、私たちの側にも、いろいろな言い分があるかもしれませんが、主にならって受ける事が、御旨であると思いますが、いかがでしょうか。

———ヨハネからバプテスマを受けるために———

(13 節)「そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川のヨハネのもとに来られた。彼からバプテスマを受けるためであった。」

ヨハネによって「私の後に来られる方は・・・」(11 節)と言って、紹介されたイエス様が、いよいよこの所から登場されます。イエス様 30 歳の時でした。

イエス様は今、一つのはっきりとした目的を持って、ヨハネの所に来られました。

その目的とは「彼からバプテスマを受けるためであった」のです。

——— そうさせまいとして ———

(14 節)「しかし、ヨハネはそうさせまいとして言った。『私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要があるのに、あなたが私のところにおいでになったのですか。』」

今、ヨハネ躊躇しています。 何故でしょうか？ 2つの理由があります。

・第 1 に、あまりにも聖いお方を前にして、ヨハネは恐れていました。彼は 3 章 11 節で「・・・私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格ありません。・・・」と言っています。自分はイエス様の奴隷になる値打ちもないのに・・・この私が、主に洗礼を受けるなんて、あまりにも恐れ多いことだということです。

・第 2 は、ヨハネのバプテスマは、罪の悔い改めのバプテスマでした。でもイエス様は、神によって生まれた罪のない方でした。ですから罪を悔い改める必要もなければ、バプテスマを受ける必要もなかったのです。そのことをヨハネはすでに、知っていました。

(15 節)「しかし、イエスは答えられた。『今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。』そこでヨハネは言われたとおりにした。」

——— それ以上に正しいこと ———

ここで、言われている正しいこととは、どのような事なのでしょう？

「正しいこと」それは、神が私たちに要求されていること、期待されていることです。御旨を行う事は、人間にとってそれはあまりにも、当然な事、正しいことなのです。

イエス様が「私にバプテスマを授けて下さい」と言われたのであるなら、ヨハネの側でどんなに正しい理由があろうとも、イエス様が語られていることはそれ以上に正しいのです。ヨハネのこだわりは正しかったと思います。でも、それ以上に、イエス様が要求されていることはもっと正しかったのです。

——— 白いハンカチと雪の白さ ———

雪が降っていた時のことでした。一面の銀世界です。ある方が、奥さんから洗濯したばかりの、アイロンをかけてきれいに折り目が入っている、ハンカチを広げて雪の上に置きました。真っ白なはずなのに、何か薄汚れているように感じました。その方は言いました。「これが人の義と、神の義との違いだね。」私たちの清さ、正しさは神様の清さ、正しさにははるかに及ばないのです。天と地ほどの違いがあるのですね。

それなのに私たち、私たちの小さな正しさで、神様のより大きな正しさを退けてしまっているはいないでしょうか？ 洗礼の時も同じです。私たちの側では、正しそうに見える、いろいろな理由があるかも知れませんが、神様はもっと大きな理由で、私たちに洗礼を受ける事を願っておられるのですね。

——— 主がバプテスマを受ける理由 ———

ではなぜ罪のないイエス様が、罪の赦しのバプテスマを受けなければならなかったのでしょうか？ 次の2つのみことばに注目してみましょう。

(ピリピ 2:6、⑦、8 節)「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。・・・」

(へブル 2:17 節)「・・・あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。・・・」

そうです。イエス様がバプテスマを受けようとしたのは、彼に罪があったからではなく「・・・正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしい・・・」ことであつたからです。イエス様は人間の救い主になるために、人間と同じ様にならなければなりませんでした。人になられたイエス様は受けなくともよい、バプテスマをあえて受けられて、人々に模範を示されました。

正しいことへの動機は、いつも愛です。繰り返しますが、イエス様にとって洗礼を受けるか、受けないかは、どちらでも良かったのです。しかし、人々への模範を自らが示すために、あえて洗礼を受けられたのです。

神学校時代の友人です。彼は野菜が嫌いでした。でも、今は子ども2人の父親です。一度食事に招かれて気づきました。彼が野菜を食べているのです。後で聞きました。「子供たちに野菜を食べさせるために仕方なかったんだ。」彼の子供たちへの愛を感じました。

さて、この所まで来てヨハネはわかりました。イエス様の言われていることが、自分の考えをはるかに超えていることに気づきました。

(15 節)「・・・そこでヨハネは言われたとおりにした。」

ヨハネは、この時点でもまだ主の事をすべて知っていたわけではありません。

でも、決断をしました。従う、決断です。

——— 三位一体の神様が喜ばれた ———

(16、17 節) さて、イエス様が、バプテスマを受けられると、すぐに三位一体の神様が、人となられたイエス様を祝福しました。「・・・すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に下って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。』」

ここに、三位一体の神様が同時に登場しています。人となられたイエス様のバプテスマを祝福しています。同じ神様は私たちにも願っておられます。私たちが「正しいことをすべて実現すること」を……。 そう「あなたが実現することを・・・」です。

私たち、共に主に喜ばれる人生を求め、目指しましょう。